

要約

1980年代以降、さらなる国際競争は多くの発展途上国の農業を存亡の危機にさらしています。経済学者は、一般に、国際競争の影響を打ち消すために財政政策や金融政策を提案していますが、実証的根拠に基づく解決策に焦点を合わせていない。本研究は、スリランカで持続的な食料調達、農業生産と地域資源使用のための食物連鎖システム（FCSs）を対象に分析します。そして、その実証的分析を通して、スリランカにおける国際競争の影響を払拭する最高の解決策を示します。本研究は、特に、FCSsへの接近法として資源循環システム（RCSs）に着目しました。分析視点は次の3点です。第1に、風土の異なる各地域にある典型的なRCSsの特徴づけ、第2に、経済の自由化による経済的、社会的、環境的な悪影響の払拭に果たすRCSsの機能分析、第3に、RCSsの展開条件の確定です。本研究は、帰納的な研究方法を用いて、典型的な5事例を対象に実証的な研究を行った。

最初の事例研究は、砂糖部門によって始動されたRCSであるが、そのRCSにおける農家と加工業者間の地域資源の効果的循環の重要性を次の点で示した。①農村貧困の緩和、②地域住民に対する雇用機会の創出、③地域住民の生活条件の改善、④国際競争とリンクせずに加工部門の経済力の強化等の側面を示した。その分析は、砂糖や関連商品の製造において、地域資源への強い依存が、海外産輸入原料への最小依存につながった事を示した。地場産主要原料に基づく加工部門は、より大きな付加価値生産段階へと生産システムを多角化しました。そのRCSはそのシステム内で、加工業にとっての電力エネルギーや農民にとっての肥料を確保しており、輸入原材料への依存を最小にしました。本研究は、そのRCSの下でのサトウキビ栽培の経営費や所得の面での比較優位性を証明しました。

第2の事例研究は、酪農部門における資源二重循環システム（RDSCS）である。これは、国際競争下で、酪農家の生産性向上と経営強化によって、地元の酪農部門を活性化させる戦略を提示しました。本研究は、スリランカにおける独立自営小規模酪農家、酪農と作物の複合経営、酪農市場を研究対象とし、その分析により、そのRCSが有する①農家レベルで複合化した資源管理技術の効率性、②酪農所得と生産性の改善、周年就業機会の提供、家族労働力の効果的利用による小規模酪農家への貢献性、③より良い原料乳価格が獲得できる競争的サプライチェーン・システム適用の有効性、④有機肥料使用とバイオガス生産による環境配慮への積極性などの諸点を明らかにしました。

第3および第4番目の実証的研究は、地場産ココナッツの伝統的な循環システムである。両研究は、地域経済のベースとなるココナッツに対する国際競争の影響を払拭する上で、そのシステムの3つの重要な特徴を示しました。それは、①地域の主要な作物にベースをおく多様な産業システムであること、②その主作物が地域自然への順応性が高いこと、③そのシステムのすべての小規模農家にとって重要な経済的機会を与えていることである。本分析はまた、安定した地域経済の3つの主要条件を示している。地域経済における家庭内製造業の中規模や大規模な加工産業への成長、その地域で主要な原料をベースにした価値付加システム、そして、地元労働市場に対するココナッツ加工産業の貢献である。両研究は、地元の農民にとって寡占市場構造であることを特定しました。しかし、全体的に農民の経済状態は弱くはならなかった。なぜなら、農民はそのシステムによって労働報酬を得る機会を得られるし、ココナッツ生産地で多様な農業ができるからである。

第5の実証的研究は、農業協同組合と小規模農家間の相互作用システムである。スリランカにおいて、不利な条件にある小規模農家を経済の自由化から保護する為に、協同組合の生産と販売の両事業で、農民の努力と地域資源を結合させることの重要性を示しました。協同組合によるマーケティングの構造と機能の分析は、主要な付加価値製品の品質改善、市場搾取問題の削除、市場参入の改善によって、小規模農家のマーケティング状態の改善に貢献しました。

これらの研究結果は、本分野の既存知識に付加する新しい知見である。従って、本研究は国際競争環境の中で、スリランカにおける持続的な食料調達、農業生産、地域資源活用の方法としてFCSs関連のRCSsを提示した。